

## 欧州紀行(4) サウサンプトン出港

2023-6-17 池田良穂

いよいよ「アンセム・オブ・ザ・シーズ」の 1 週間ノルウェークルーズに乗船の朝がやってきました。ハイスのホテルで 5 時に目覚めて AIS を確認すると、すでに船は港内に停泊していました。

停泊する同船の姿を撮影するために、ハイスフェリーに乗船してサウサンプトンにでかけました。この日には、旧オーシャンターミナルの隣の岸壁には川崎汽船の PCC「オリオン・ハイウェー」が停泊していました。サウサンプトンの町を散策していると、船員や乗客の慰霊の銘板があり、フォークランド紛争の銘板には P&O の客船「キャンベラ」の姿が刻まれていました。

ハイスに戻ってホテルをチェックアウトして、「アンセム」の停泊しているシティー・クルーズターミナルに向かいました。タクシーを降りたところでスーツケースを預けて、ターミナルビル内に向かいました。ここまでは今まで通りです。しかし、従来通りカウンターがたくさん並んで、チェックインのための長蛇の列かと思いましたが、拍子抜けするほどカウンター数は少なく、4 列ほどの先頭で係員が手持ちのタブレットでパスポートを写すと画面に顔写真がでて、ワクチンの接種回数を聞かれただけでチェックインは瞬時に終了して、部屋番号の入った紙が渡されて「乗船してください」との言葉で、「え、これで終わり?」と声を上げたほどでした。事前に日本からインターネットを通じてオンラインチェックインを済ませていましたが、とても簡単になっていました。コロナ禍によって、チェックイン・システムが急速に IT 化されたようです。イギリスに到着した時、長い時間がかかることで有名だったヒースロー空港での入国審査も、パスポートを機械にかざすだけで終わり、驚きましたが、クルーズの手続きの方も同様に簡単になっていました。

さて、ノルウェークルーズの値段は、地中海やカリブ海クルーズに比べるとかなり高かったのも、安いインサイドルームを予約することになりました。インサイドルームを使うのは久しぶりです。それも部屋も指定できない最低価格のタイプで申し込みをしたところ、最終案内で部屋番号が知らされるというものでした。

このインサイド部屋が意外にも快適でした。室内の壁にあるカーテンを開けると、バルコニー風の画面に外の景色が映し出されていました。これがなかなかよくて、アウトサイドルームでなくてもいいかという気持ちになりました。

さて部屋に入って手荷物を置き、いつものように 14 階のウィンドジャマーレストランに出かけて、港を眺めながら遅い昼食をとりました。

出港前実施が必須となった避難訓練は、部屋のテレビかスマホの船会社提供アプリで説明を聞き、指定されたマスターステーションに行ってカードを読み取ってもらうだけで終わりました。

17 時に船は岸壁を静かに離れました。船首の巨大なサイドスラスターと船尾のポッド推進器で驚

くほどスムーズに回頭して船は港口を目指しました。ここからソレント海を航海して、ワイト島やポーツマス近くを航海してイギリス海峡に入ります。この間、結構な数の船と出会うはず。夜の 21 時までには明るいので、シップウォッチングが大好きな筆者にとってはゆっくり夕食をとっている場合ではありません。セルフサービスのウインドジャマーで急いで夕食をとった後は、前方のよく見えるソラリウム内に席を確保して、船がイギリス海峡・ドーバー海峡の幹線ルートに乗るまでずっとシップウォッチングを楽しみました。

この後、シアターでのショーも見なかったのですが、ちょうど日本時間では早朝の時間帯で、時差ボケで眠くて起きているのは不可能。ちょっともったいないところですが、健康のために早めに就寝しました。翌日は 1 日北海を北上する航海日ですが、また船との出会いを期待して。



インサイドキャビンの壁には外が映し出される壁がありました。画面は、実際のカメラ画像のようでした。メーカー名をみると、シャープのアクオスでした。



17 時に船はサウスンプトン港を出港して、ソレント海に乗り出しました。出港時にサンデッキから眺めた風景です。



シティ・クルーズターミナルの隣にあるワイト島航路の埠頭からカーフェリー「レッド・イーグル」が出港して、川崎汽船のPCCと同じファインダーに収まりました。2隻共に赤がよく映えていました。



ソレント海を南に向かう「アンセム」のブリッジ上の甲板には、ソラリウムから出ることのできるウイングがあり、乗客で一杯でした。反航するのはレッドファンネルの「レッド・オスプレー」です。



ソレント海はたくさんのプレジャーボートで溢っていました。さすがに海事国です。豪華なモーターボートが、「アンセム」の横を疾走していきました。



サウザンプトンとワイト島を結ぶ高速旅客船「レッド・ジェット 7」と反航しました。



ソレント海のデイクルーズ客船「オーシャン・シーン」です。ブルーファンネル社が運航しています。



ワイト島のカウズの沖合はプレジャーボートで溢れ、その中をレッドスターのカーフェリー「レッド・イーグル」が出港してきました。ここで、「アンセム」は針路を大きく変えて蛇行するようにボースマスの方に針路を変えますが、その時には、パイロットボートがヨットやモーターボートの交通整理に大活躍していました。



ポーツマス港とポーツマス島を結ぶホーバークラフト「アンランド・フライヤー」です。



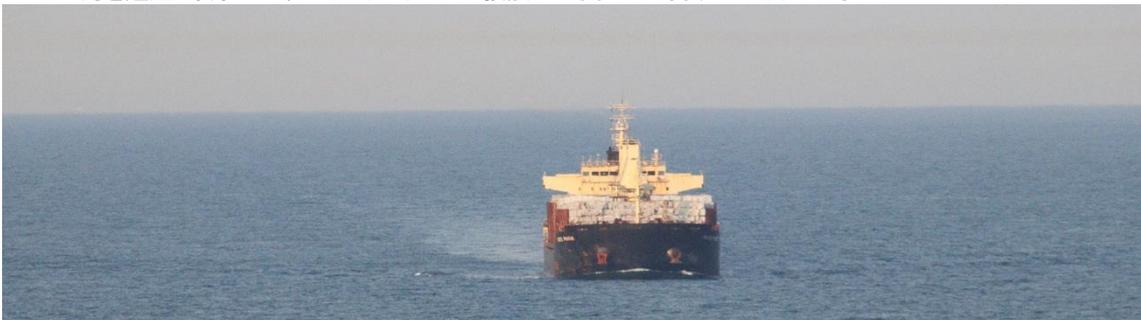
ポーツマス港とポーツマス島を結ぶワイトリンク社のカーフェリー「セント・クレア」です。



ポーツマス港の入口付近の沖合を「アンセム」は通過していきました。正面に聳えるのが展望台であるスピナーカー・タワーです。



ソレント海を通過し終わって、パイロットボートが接舷して水先人が降りていきました。



イギリス海峡に入ってから、メイン航路を航行する「パシフィック・パイオニア」の前を横切り、西に転舵してドーバー方向に向かいました。



日没が迫る 21 時頃にハパクロイドのコンテナ船「ナゴヤ・エクスプレス」と反航しました。